

目(寒高冷地春播き)を目安に、1本重量が200gが中心となるよう適期の収穫に努めます。

また、収穫後、直射日光や風に当たると、表皮

が変色するなど品質を低下させるので注意し、良品の出荷に心がけます。

高冷地向夏播き用ホウレンソウの 優良品種「ジュリアス」の特性

雪印種苗(株)中央研究農場 安達英人

ホウレンソウの特徴は、栽培期間が短いため都市近郊の野菜経営には非常に有利な作物であるということ、栄養価値が緑色野菜で非常に高く、調理も簡単で、農薬の使用量も少ないという点にあります。

最近、春・夏播きの出荷量の少ない時期の市場価格が高価に推移しているため、この時期の栽培に関心もたれますが、ホウレンソウの特性からみると、たいへん都合の悪い栽培条件であるといえます。すなわち、ホウレンソウの生育適温は15~20℃であり、長日条件下で抽苔しやすいという性質をもっています。従って、夏期間の高温長日というホウレンソウにとっての不良条件下で栽培するためには、品種の選定が重要なポイントになります。

弊社では、昨春、晩抽性で生育の早い、夏播き用品種として「ジュリアス」を発表し、試作・販売を行なって好評を得ておりますが、以下に、「ジュリアス」の特性と61年度の道内各地における試作結果を紹介いたします。

1 ジュリアスの特性

①抽苔が遅く、安定している

「ジュリアス」は晩抽性品種ですから年間を通して播種可能ですが、早春・秋播きでは生育が遅いため5~7月播種が適して

います。特に高温期では耐暑性に優れ、生育が早く、収穫始(草丈20cm程度)に抽苔する心配はありません。

②品質が良く荷姿も美しい

ホウレンソウのような葉を食べる作物では、葉の色が強調されますが、「ジュリアス」は葉色が濃く、葉面に光沢があり、品質が良好です。また、従来の夏播き用品種は草姿が開張性であるので、収穫調整がしづらいという欠点がありましたが、

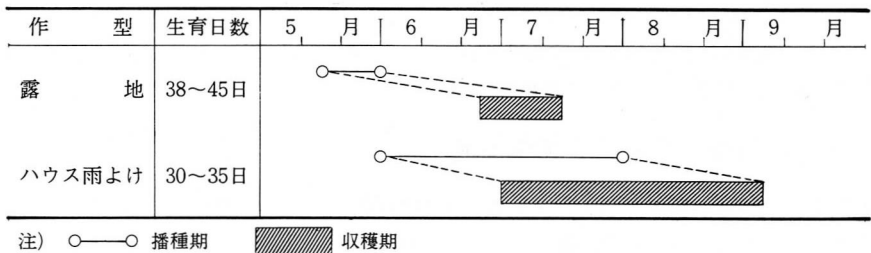


図1 ジュリアスの適応作型(北海道)

表1 道内各地におけるジュリアスの試作結果

	品 種 名	播種日	収穫日	草 丈	葉 数	一株重	葉 色 ¹⁾	抽 苔	総 評	合 価 ²⁾
		月 日	月 日	cm	枚	g	5~1	%		
長 沼	ジュリアス サンシャイン コマンチ	5. 3	6. 17	23.8	12.0	28.1	3.5	0	◎	
				22.8	12.1	24.4	3.5	0	○	
				20.3	12.7	24.0	3.5	2	△	
旭 川	ジュリアス コマンチ アドミラル	5. 15	6. 19	23.0	—	41.8	4.0	0	○	
				18.3	—	25.0	4.0	0	○	
				23.3	—	25.0	4.0	0	○	
厚 沢 部	ジュリアス クレメント サンシャイン	5. 31	7. 3	27.1	12.2	40.0	4.0	0	◎	
				23.1	7.5	25.2	4.0	0	◎	
				20.9	10.4	20.8	4.0	一部	○	
七 飯	ジュリアス クレメント アドミラル	6. 13	7. 15	22.8	7.5	27.0	—	0	○	
				19.5	7.0	21.5	—	4	△	
				23.2	6.8	29.7	—	1	○	
旭 川	ジュリアス コマンチ アドミラル	6. 21	7. 19	26.0	—	29.2	4.0	0	○	
				25.7	—	28.6	4.0	0	○	
				23.7	—	25.0	4.0	0	○	
留 萌	ジュリアス クレメント J 交	6. 26	7. 24	24.5	6.2	31.0	4.0	7	◎	
				23.6	5.6	22.5	5.0	0	○	
				26.3	6.6	23.8	4.0	60	×	
士 別	ジュリアス コマンチ マナスル	7. 10	8. 22	24.6	9.4	35.0	—	—	◎	
				25.1	9.6	28.6	—	—	○	
				26.4	9.4	27.9	—	—	△	
札 幌	ジュリアス クレメント アドミラル	7. 15	8. 19	24.7	7.0	58.0	4.0	—	○	
				22.1	6.9	59.8	4.5	—	○	
				22.9	6.4	54.2	4.5	—	○	
留 萌	ジュリアス クレメント J 交	7. 31	9. 2	24.6	8.2	27.0	3.0	0	○	
				19.8	8.2	21.0	4.0	0	△	
				25.5	9.2	31.3	3.0	10	○	

1) 葉色：5（極濃緑色）～1（黄緑色）
2) ◎：極良，○：良，△：並，×：不良

「ジュリアス」は半立性で葉身と葉柄のバランスが良いので、結束が容易で荷姿もきれいです。

③べと病に強い

ハウレンソウの連作地帯では、べと病の発生によって致命的な被害を受けることがあります。 「ジュリアス」はべと病レース1, 2, 3いずれにも抵抗性をもっていますので、べと病の汚染地帯でも栽培することができます。

栽培の概要については、「牧草と園芸」第34巻4号に掲載してありますのでご参照下さい。

2 道内各地における試作結果

表1は、「ジュリアス」の道内での適応性を確認するために、各地に試作を依頼し、その結果をまとめたものです。

①5月播き（長沼，旭川，厚沢部）

5月は全道的に平年よりやや低温で推移したため、一般的にやや生育の遅れがみられましたが、「ジュリアス」は低温下での生育が旺盛で株張りも良好でした。特に厚沢部では、他品種に比べ、生育が早く多収であるということが高い評価を得ました。

②6月播き（七飯，旭川，留萌）

6月は長日条件下であり、最も抽苔しやすい時期ですが、「ジュリアス」は生育が早いので抽苔の心配がなく、播種後30日前後で収穫できます。留萌で7%の抽苔がみられましたが、収穫終期（草丈25cm程度）に達しているの で問題ないと思われます。

③7月播き（士別，札幌，留萌）

7月は長日条件下であるうえに高温乾燥期になりますが、「ジュリアス」は高温条件下でも生育良好です。士別では表の項目以外にも葉肉，根色，株揃い等が良好であるという評価を得ました。

3 ま と め

夏播きハウレンソウの栽培地帯では、近年、雨よけハウスの導入が盛んに行われています。雨よけハウス栽培では安定・計画生産が可能となりますが、反面、連作による土壌病害の発生，塩類濃度障害等の問題も発生しています。

今後は、土壌診断に基づいた土づくりを行い、綿密な栽培管理のもとで、夏播きに最適な「ジュリアス」の特性をいかして、良質な品物を安定出荷されることを期待いたします。